

平成30年度浦河町地方創生推進会議議事録

開催日時：平成30年10月29日（月）午後1時30分～午後3時00分

開催場所：浦河町役場 2F大会議室

出席委員：14名（大針光晴委員、吉田隆委員、川越太郎委員、富田貴憲委員、高田淳委員、吉瀬献策委員、長崎英一委員、高橋正樹委員、富永孝幸委員、早坂誠委員、米倉祥子委員、菅真一委員、榎本淳一委員、河西邦人委員）

欠席委員：6名（上埜友介委員、伊藤勇二委員、濱谷雅樹委員、木村晃悦委員、石山勲委員）

浦河町出席者：10名（伊藤企画課長、芝田企画課参事、真下商工観光課長、長崎子育て医療課長、熊倉産業課長、住吉産業課参事、小林保健福祉課長、田中管理課長、佐々木商工観光課長補佐、菅野企画課主幹）

オブザーバー：1名（日高振興局地域創生局 栗田地域政策課長）

議事1 平成29年度地方創生総合戦略の進捗状況の確認及び効果検証について

【事務局】

（資料 浦河町地方創生総合戦略に掲げる政策目標の進捗状況・達成状況、重要業績評価指標（KPI）の見直しについて説明）

【座長】

重要業績評価指標の見直しについては、この後の政策目標ごとの説明の際に確認していきますが、進捗状況・達成状況についてご意見等ございますでしょうか。

子育て関連でA委員いかがでしょうか。

【A委員】

すくすく子供券など医療費の補助や給食費補助や子育て支援住宅の建設など少しずつつかもしいませんが、この会議でお話していたことが実現されており大変良いことだと思う。

【役場担当】

子育て事業計画の見直しを進めるにあたり、子育て世帯に満足度などのアンケート調査を予定しているので、そういった中でも子育て世帯のニーズなど把握して検証など進めていきたい。

【座長】

それでは総合戦略確認調書について説明お願いいたします。

【事務局】

（資料 総合戦略確認調書 政策目標1について説明）

【座長】

ただいま、事務局より政策目標1について、重要業績評価指標の見直しについて（2）新たな観光産業の振興の③着地型・体験型観光参加者のリピート率については新規の入込者が増えるとパーセンテージが減ってしまうので、パーセンテージでは無く、人数で目標設定したいという説明いただきましたがいかがか。

【B 委員】

見直すのであれば、平成 28 年度と平成 29 年度の人数を教えてください。

【事務局】

平成 28 年度が 29 名、平成 29 年度が 3 名となっている。

【座長】

どうしてリピート率が減っているかなど要因として、役場担当課で何かございますか。

【役場担当】

短期乗馬レッスンのリピーターが平成 28 年度は 29 名おり、平成 29 年度については 3 名と少なかった。28 年度から 29 年度については新規の顧客が増えた状況もありリピート率が下がった。新規のお客さんに PR したといったところが強かった。重要業績評価指標の方にもリピートについてありますので新規顧客、リピート顧客とも PR をすすめていきたい。

【座長】

他、観光関係で何かございますか。

【B 委員】

平成 30 年度の方のリピートの人数はわかるか。

商品開発についてはどういった内容ですか。

【役場担当】

平成 30 年度のリピートについては現在上期分を集計中であります。

商品開発については現在進行中のものもあるが海産物を使った商品開発、いちごを使った商品開発、浦河産和牛をベースに商品を使ったものの 3 つとなっている。

商品によっては単年度の補助のものもあれば、2 年にまたがり補助を受けるものもある。

【C 委員】

いちごの商品開発はどういったものか。

【役場担当】

いちごシャーベットです。

産業まつりなどでも出店して PR いたしました。

【D 委員】

商品開発するのは誰が決めているか。

【役場担当】

商店や飲食店や農家さんなど自分のところで作りたい希望があれば申し出ていただいている。開発費についてはパッケージや成分分析などの費用も対象としている。

【D委員】

ヒットするとかしないとかで補助を継続するだとかを決めることになるのか。

【役場担当】

1商品2年までの間で開発を進めていただいている。本来であれば作ったもの全てヒットしていただければ良いが、難しい部分もありますので商品開発事業をきっかけに事業者さんにチャレンジをしてほしいといった意味で事業を進めている。

【座長】

他無ければ事務局より政策目標2についてご説明いただきます。

【事務局】

(資料 総合戦略確認調書 政策目標2について説明)

【座長】

重要業績評価指標の見直しについて合宿入込数と乗馬療育利用者数について説明がありましたが意見等ございますか。

【B委員】

合宿についてアエル以外のものも考えていると思うがファミリースポーツセンターの改築などは町外利用者や合宿誘致も含めて町としてはどう考えているのか。

【事務局】

同規模のものを新築、改築するかなど先日も議会などで視察にも行っており現在検討中といったところで、今のところ方向性が決まっていない。

【E議員】

合宿の種目で多いのはどの競技か。

【事務局】

夏場のサッカーが一番多い。あと春先の野球も増えている。

【B委員】

ふるさと納税の返礼品は海産物や農産品などどういった割合か。

【事務局】

細かな数字は無いが今年度の人気の返礼品は1位がいくら、2位がいちご、3位が鮭となっている。120ほどの品目があり、チラシやパンフレットを作成してPRに努めているところ。

【座長】

民泊事業について受入についてなど苦勞していると思うが現在の状況はどうなっているか。

【役場担当】

受入していただける1次産業に従事されている方の高齢化などもあり苦勞しているところ、現在は日高王国の浦河、様似、えりもで1回の受入の上限を120人として受入しているところである。

本州の大きな学校であれば1学年400人といったところもあるので3クラスを日高王国で受けて、それ以外は空知管内で受入するといったケースもある。

今までの受入の他に一般家庭でも宿泊受入をして作業体験を1次産業の家庭でしていただくといったこともやりながら受入家庭を増やす取組もしているところ。

【D委員】

新ひだか、新冠なども入れて日高王国として受入はできないのか。

【役場担当】

日高王国としては先行して東部3町で受入をしているので、そういった新ひだか、新冠なども入れて受入拡大はしていきたいところである。

【座長】

他無ければ事務局より政策目標3についてご説明いただきます。

【事務局】

(資料 総合戦略確認調書 政策目標3について説明)

【座長】

延長保育利用者について見直しがあったが、子育ての担当の方で補足などありませんか。

【役場担当】

浦河町で子ども子育て支援計画の延長保育については実績との乖離があり、見直したところですが、延長保育は300人前後といったところである。少しの時間お子様を預ける一時預りをしているケースも見られる。共働きなので遅い時間までお子様を預けるといったケースは浦河ではそれほど増えていないと感じている。

確定している話では無いが、これから国の政策で保育料無償化などになれば無料であれば子供を保育所に預けて働くといったケースも増えてくるかもしれない。

今年度子育て世代へのアンケートも予定しているのでそういった声も聞きながら対応していきたい。

【B委員】

全国学力・学習状況調査のところでタブレット学習について進展状況はどうなっているのか。

【役場担当】

昨年導入させていただき、Wi-Fi 環境について一部不具合があり機械が止まってしまうといったことがあったがそちらは改善した。使用方法については朝学習のドリルや授業での演習ドリルなどにも使っている。タブレットの有効活用については町の方で学力推進委員会の方でも検証しており、全部の先生が使えるように研修もしながら進めているところである。

【座長】

タブレットなどについては現在は子ども達の方が慣れているといったところじゃないでしょうか。

学力だけが学校の価値を高めるものではないと思いますが、全国学力学習状況調査についてF委員はどのようにお考えでしょうか。

【F委員】

実績がある秋田県などでは授業の他、プラスアルファの部分で家庭学習の習慣や基礎学習の繰り返しなど徹底しておこなっている。

タブレットのことも出ていたが高校生になるとスマートフォンがあるので授業の延長で色々できるが、小中学校になると家で調べたりといったところはスマートフォンや住宅でのWi-Fi 環境などもあり授業以外で利用するといったことが難しいのではないかと。

【座長】

他無ければ事務局より政策目標4についてご説明いただきます。

【事務局】

(資料 総合戦略確認調書 政策目標4について説明)

【座長】

若者によるまちづくり提言の実現について青年部の関係でG委員何かございませんか。

【G委員】

提言まではいっていないが、青年部では観光協会と連携してまちづくりへの取組で研修や事業をおこなうケースが多くなっている。

【座長】

まちづくり提言などの大きなものは無いが様々なところで若者のまちづくりに関連する取組は増えてきているところでしょうか。役場の方では何かございませんか。

【役場担当】

今年3月にまちなか元気ステーションがオープンしたが、ボランティアが参加するコミュニティーカフェ事業をおこなっているが、そこに高校生や看護学生が自らの企画提案で入ってきていただいている。高齢者にも好評でとても良い事業である。

【座長】

安心と連携で支えるまちづくりにカーボンオフセット・クレジット販売があるが今の現状では目標値が高いのかなとも思う。一時期に比べるとCO2削減などは全国的にみても積極的でなくなった。環境への取組は大変必要であるが担当ではどうお考えか。

【役場担当】

全道の状況も調べてみたが自治体が半分以上参加しておりどの自治体もやっている中でオフセット・クレジット販売量を増やしていくのは厳しいといったところもある。

【事務局】

若者のまちづくり提言といったところで今年度来週11月4日に町民向けのコンサドーレサッカー応援ツアーについて、たくさんの町民が参加しやすいように浦河高校生が企画提案した事業がありますので報告します。

【座長】

これは今回の評価実績に入るのか。

【事務局】

平成30年度には実績になります。まちづくりの提言となると大きなものを考えてしまうが今回の事業なども含めれば細かなものでも色々とあるのかなと考えている。

【座長】

まちづくりへの住民参加の促進が大きなテーマでありますので提言に至らなくてもそういった取組をカウントするかたちで良いのかもしれない。

【E委員】

空家について現在調査中ということだが、その後の利用方法などは決まっているのか。

【事務局】

これから決める状況。調査が終われば壊さなければならない空家、簡単なリフォームで使える空家などを区別して利用することになる。

【H委員】

自分の職場にも60歳を過ぎてから移住して働きたいといった問い合わせもあったが、体験移住の住宅はあるが定住用の住宅が無いといった声も聞くので、せっかく移住したい人が来るのであれば不動産屋だけではなく、町の方でもそういった人に住宅を紹介していただけないか。

【B委員】

親族の方が亡くなって、その後、そのままにしていると空家が多いのではないかな。

リフォームなどには町の方でも補助出しているが、掃除やごみ処理などの費用も助成すると家を貸すといったケースが増えてくるのではないかな。検討してほしい。

【役場担当】

移住の空家などを担当しているが空家の確保については貸してよい住宅を掘り起こすところで、固定資産税の納付書を送るときに空家についての情報提供のお願いのチラシも入れているがアパートなどの情報も含めて連絡があるのは10件程度である。

道の空家のモデル事業で札幌在住の浦河町での空家所有者に相談会などもおこなっているので今後も情報収集や場合によっては助成事業などの対策なども検討していきたい。

【座長】

他の町の事例では空家を掃除するビジネスを若い人がおこなっているケースもある。

高齢者が住んでいた住宅を掃除する際に意外と高価な取引ができるものが出てきてそれを販売して利益が出るなど若者のビジネスチャンスにもなっているようだ。

【B委員】

空家の情報については移住者のみではなく、町内在住の方も探しているところであるので、空家バンクなどは町民もすぐ探せる形で町のホームページなどに掲載してほしい。

【E委員】

今回の地震の件で防災のことなどをこの次の会議でおこなう予定はないのか。

【座長】

地方創生の会議かどうかは別として、町として防災関連の会議などで検証や対策などを考えて良いと思う。

全体をとおして何かありませんか。

(なし)

それでは以上で会議を終了といたします。

本日はありがとうございました。